

喜多村筠庭

嬉遊笑覽

3

（卷六～卷九）

別卷 9

日本隨筆大成

吉川弘文館

日本隨筆大成 別卷

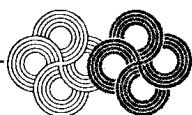
昭和四年二月二十五日發行

編纂者 日本隨筆大成編輯部

代表 早川純三郎

發行者 桜井庄吉

發行所 日本隨筆大成刊行會



日本隨筆大成 別卷

嬉遊笑覽 3

昭和五十四年三月二十六日 印刷
昭和五十四年四月五日 發行

編者 日本隨筆大成編輯部

發行者 吉川圭三

發行所 株式會社 吉川弘文館

〒113 東京都文京区本郷七丁目二番八号
電話東京八一三一九一・五一八代表
振替口座東京〇一二四四番

製作 株式會社 たんちょう社

嬉游笑覽

卷六上
音曲

三
二
絃

三
四
絃

四五絃

三絃の渡り始

四 小 弓

琉球組

四三 古近江家譜墓碣

三絃六筋がけ

四七
八筋がけ

四七
古製

四七 続ざほ

四七
催馬樂

四
風
俗

興郢曲

宴曲

今様

小歌

らうさい

長唄

隆達なげぶし

一上り一下り調子

なげぶし

ざんざん

しばがき踊

ほそり

口説

加賀節

めりやす

めりかり

めりはり

土手ぶし

大尽舞

半太夫ぶし

かぢるといふ事

なげぶし(再出)

よしの山

小倉踊

川崎音頭

間の山

伊勢音頭

琵琶法師

平家物語

琵琶法師参院の事

地神経よみ

くわうじん

天夜の尊

名字の最初

筑紫方

八坂方

坂東方

壺

壺

突

突

突

突

突

突

宅

宅

充

充

充

宅

宅

宅

宅

宅

総檢校

紫衣勅許

一方

八坂方（再出）

綱引

漕入

涼の塔

雨夜の城了

城字都字のこと

城を一と訓しこと

盲女

ござ

陶真

按摩

腹とり

按摩とり笛をふく

足力

こも僧

七

暮露

七

馬ひじり

七

こも僧尺八を吹く事

七

普化禪師

七

尺八

七

一節截

七

俠客尺八を吹

七

名ある人々

七

こも僧の体古今異なり

七

鼓弓

七

らへいか

七

提琴

七

胡琴

七

四ッ竹

七

歌板

七

木琴

七

擊甌

七

オルゴル

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

風 楽	六四	鉢扣の歌	三
しやぎり	六四	歌念仏	五
護花鈴	六五	歌説経	七
鳥おどし	六五	かるかや	九
風 鈴	六五	祭 文	九
音律の妙	六六	歌祭文	九
調子を聞て占ふ	六六	江戸祭文	九
鸚鵡石	六七	門説経	九
響 石	六七	仙台浄るり	九
山びこ	六七	門だんぎ	一〇一
鸚鵡が辻	六七	色祭文	一〇一
八人芸	六八	浄瑠璃	一〇三
三絃曲びき	六八	薩 摩	一〇三
八 撥	六八	淡 路	一〇三
羯 鼓	六八	左 内	一〇四
八からかね	六八	宮 内	一〇四
寒 声	六九	喜太夫	一〇五
説経浄るり	六九	虎 や	一〇五

女太夫
とさ浄るり
土佐外記
薩摩外記
こすいでん
小さつま
大さつま
語 斎
半太夫節
河東ぶし
十寸見堂
角太夫
都一仲
岡本文弥
阿波太夫
宮古路
竹 本
豊後節

一〇五 常盤津文字太夫
一〇六 富 本
一〇七 新 内
一〇七 鶴 賀
一〇七 岡 本
一〇七 宮 園
一〇七 義太夫浄るりの始
一〇八 宇治嘉太夫
一〇九 竹本義太夫
一〇九 豊竹若太夫
一一〇 豊竹肥前
一一〇 あやつり
一一二 小平太
一一二 操道具
一一二 石井飛驒
一一三 でこのぼう
一一三 だうこのぼう
一一三 おやま人形

一一三
一一三
一一三
一一三
一一四
一一四
一一四
一一四
一一五
一一五
一一六
一一七
一一七
一一七
一一七
一一八
一一八
一一九
一二〇

浄るり座看板の図

二〇

からくり人形

二五

のろま人形

二三

ぜんまいと云事

二六

そろま

二三

弥三五郎

二七

むきま

二三

竹田

二七

出づかひ

二三

覗きからくり

二八

辰松

二三

硝子を作る事

二九

浄瑠璃作者

二三

独狂言

二九

近松門左衛門

二三

樽人形

三〇

井原西鶴

二三

笠人形

三〇

南京あやつり

二四

与次郎人形

三〇

雨がへる

二四

碁盤人形

三〇

南京と云事

二五

七変化

三一

おでゝこと云事

二五

卷六下 翫弄

児戯

二三

ほうしご

三四

あはく

二三

塩のめ

三四

かふく

二三

れろく

三四

目じろおし

二四三 つばな拔

二四 手にて豆を作る事

一四四 爪をくふ

一四五 わやく

一四五
ヤニチヤ

一四五
だ
ゝ

一五
卯
槌

一四五 毬杖ぶりく

一四五
またぶり

二四六 卯杖

二
剛
卯

二
打
毬

一四七 玉振々

二四七 ぎつちやう

二四七 玉をきる

二五 飾り花

二只　ちぎの玉

装束雛	江戸雛	土焼の雛	奈良人形	衣装人形	押絵	子なき女の人形を愛すること	さゝやかなるもの	独楽	はかた狛	ぶせうごま	ばいごま	ちだんぼう	たうごま	はんとうごま	坊主ごま	木ばちまはし	いかのぼり
-----	-----	------	------	------	----	---------------	----------	----	------	-------	------	-------	------	--------	------	--------	-------

一七四	一七四	一七四	一七四	一七四	一七五	一七五	一七五	一七六	一七六	一七六	一七六	一七六	一七六	一七六	一七六	一七六	一七九
たこ	からすだこ	うなり	つるはかし	硝子よま	切ぬき罎	からくり罎	猿をやる	鞆韃	臼杵	ツクマイ	いしなどり	きさご大小	したとみ	はじき	きさごはぢきのツマとヤツ	どう／＼めぐり	一の膳いや／＼

まはりまはりの小仏

ぼうずく

千艘万艘

ハイロン

かみかたかれ

かたこ

いたいけ

てうらかす

しりもちつく

のゝさま

おつきさまいくつ十三七ッ

尼が紅

おまんが紅

あま

木のぼり

ひなたぼこり

土なぶり

砂あそび

一七 小家を作る

一八 箍廻し

一八 雪の山

一九 ゆき仏

一九 雪ころばし

一九 雪灯籠

二〇 雪やけ

二〇 雪女

二〇 雪こんこ

二〇 雪打

二一 寒垢離

二一 寒氷

二一 氷をたゝく戯

二一 小兒翫物字の事

二二 ころく

二二 無木簀

二三 げへ

二三 竹かへし

一三

一三

一四

一五

一五

一六

一六

一六

一六

一七

一七

一八

一八

一九

一九

一九

二〇

二〇

つき	二〇〇	むぎ笛	二〇五
ふりつゞみ	二〇〇	ぼんびん	二〇五
はりつゞみ	二〇一	ぼこんく	二〇五
おきあがりこぼし	二〇一	弾き猿	二〇五
ふんだん	二〇一	幟さる	二〇五
紙あぼし	二〇一	釣する猿	二〇六
ひたひ紙	二〇二	つながり猿	二〇六
合点首	二〇三	水挽さる	二〇六
錢太鼓	二〇三	米搗さる	二〇六
唐人笛	二〇三	桃核の猿	二〇七
豆太鼓	二〇三	蜜柑の猿	二〇七
風車	二〇三	松毬の鳥	二〇七
張子	二〇四	松毬にて翫物を作る	二〇八
獅子笛	二〇四	茗荷の鶴	二〇八
鶯笛	二〇四	折形の蛙	二〇八
猿松笛	二〇四	折居の鳥	二〇八
ひばり笛	二〇四	紙捻の犬	二〇八
笙の笛	二〇四	鉄切形	二〇九